

お知らせ

†「町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れてきなさい」

- ☆ ロザリオの意向：世界の各地で起きている争いが収まり、世界の皆が平安のうちに生きていくことができますように。
- ☆ 10 月はロザリオの月です。毎週日曜ミサ前 8：30 からロザリオの祈りを行います。
- ☆ 10 月 11 日（日）年間第 28 主日
- ☆ 10 月 15 日（木）聖書勉強会 10:30～12:00
- ☆ 10 月 18 日（日）年間第 29 主日 世界宣教の日（特別献金） 大楠教会バザー
- ☆ 10 月 25 日（日）年間第 30 主日 和田墓地一般清掃 9:00～ ミサ 11:00～（雨天時 11/1）
- ☆ 11 月 1 日（日）年間第 31 主日 諸聖人
- ☆ 11 月 5 日（木）聖書勉強会 10:30～12:00
- ☆ 11 月 8 日（日）年間第 32 主日 アベイヤ司教様来訪 ミサ後茶話会
和田墓地追悼ミサ・納骨式 14:00～
- ☆ バザーのガレージセールのための品の持ち寄りをよろしくお願いいたします。
10/17 15 時より会場準備（テント張り）を行いますので男性の方、協力をお願いいたします。
- ☆ 10 月 21 日（水）シンガポール巡礼団（29 名） 12:45～
- ☆ 誕生会について：今月に誕生日を祝う人は第 3 日曜日までに用紙に名前を書いて下さい。
- ☆ 門の開閉について、平日は防犯上、教会に出入りのたびに門を閉めていただくよう協力をお願いいたします。

朗読当番：



カトリック大楠教会ホームページ：<https://www.ogusu-catholic-church.com/>

10 月の祈りの意向

教皇の意向：心の健康についての司牧

すべての教会で心の健康についての司牧が確立され、心の病から生じる偏見や差別を克服する助けとなりますように。

日本の教会の意向：宣教

宣教の実りを願って祈ります。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ 16・15）と言われたイエスのことばに従い、私たちが生活の中で福音の喜びを証しすることができますように。

共同祈願：

1. 宣教の月にあたって、一人ひとりが福音を告げる前に、キリストの言葉を信じ、愛し、その実現を望みますように。

年間第 28 主日

皆さん、今日の福音（マタイ 22 章 1 節～14 節）には、少し不思議で、ある意味では衝撃的なたとえ話が出てきます。

ある王が自分の息子のために婚宴を開き、人々を招待します。ところが招かれた人々は、畑へ行ったり商売に出かけたりして、その招きを断ります。中には王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまう人までいました。王は激しく怒り、彼らを滅ぼし、その町を焼き払います。さらに、婚宴に入ってきた人の中で婚礼の礼服を着ていない人を見つけると、外へほうり出してしまいます。

これを読むと、「なぜ、こんなに厳しいのだろう。これは本当に神様の姿なのだろうか」と戸惑うかもしれません。しかし、このたとえ話のすべてを文字通りに受け取り、「神様は招きを断った人を怒って滅ぼす方なのだ」と考える必要はありません。神がお怒りになるのは私たちが憎んでいるからではなく、愛と正義を踏みにじることを神が決して軽く見ておられないからなのです。

イエス様はこの強い表現を通して、神様からの招きがどれほど大きな恵みであるか、そしてその招きに私たちがどう応えるかが大切であることを教えておられます。

聖書において「婚宴」は、神様とその民との喜びに満ちた交わりを表します。つまりこの婚宴は、御子イエス・キリストを通して私たちが御自分の命と喜びへ招いてくださる神様の姿です。私たちは皆、この婚宴に招かれています。これは本当に大きな恵みです。

ところが招かれた人々は、その招きを大切にしませんでした。彼らにしてみれば、目の前の仕事や自分の都合の方が王からの招きよりも大切だったのです。

同じ問いは、私たちにも投げかけられています。神様は御言葉を通して、教会を通して、秘跡を通して、人との出会いを通して、そして人生の出来事を通して、私たちに招いてくださいます。しかし私たちは往々にして「今は忙しい」「仕事がある」「自分のことで精いっぱいだ」などと言って、その招きを後回しにしてしまうことがあります。

今日の第一朗読のイザヤ書(イザヤ 25 章 6 節～10a 節)にも、すべての民のために開かれる素晴らしい宴会が描かれています。神様が私たちに与えたいと願っておられるものは、恐れや苦しみではありません。神様は私たちを喜びと命、そして救いへと招いておられるのです。

では、王の激しい怒りは何を意味するのでしょうか。それは単純に、「神様は腹を立てて人間を罰する」という意味ではありません。神様からの招きを拒み続けることには、それに伴う結果があるということです。

神様は私たちを愛し、命へ招いてくださいます。しかし人間には、その招きを受け入れる自由も、拒む自由も与えられています。

それでも、神様の招きは終わりません。王は家来たちに言います。

「町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。」

善い人も悪い人も、すべての人が招かれます。私たちが立派だから招かれるのではありません。神様が愛してくださるから、私たちは招かれています。

では、「婚礼の礼服」とは何でしょうか。それは単なる服ではなく、神様の招きを受けた私たちが、その恵みにふさわしく生きようとする姿です。愛、平和、謙遜、赦し、和解、思いやり、そして隣人へのいつくしみです。

日曜日にミサに来ることは大切です。しかしそれだけで終わるのではなく、ここでいただいた恵みを生活の中で生きることが求められています。家庭で人を赦すこと、困っている人に手を差し伸べること、孤独な人に寄り添うこと。それが私たちの「婚礼の礼服」です。

皆さん、私たちはすでに神様から招待状をいただいています。大切なのは、「私は招かれているだろうか」ではありません。「私はその招きに、どのように応えているだろうか」ということです。

今日、このミサの中で、神様からいただいている招きの恵みに感謝し、愛と赦し、平和と思いやりという婚礼の礼服を身につけて、毎日の生活の中で神様の招きに応えていくことができますように。

アーメン。